

患者ニーズが高まる 全身医療脱毛と 幹細胞由来美容液の 活用の実際と可能性

日時

2021年7月31日(土) 12:20~13:20

会場

第1会場【国立京都国際会館 1Fメインホール】
〒606-0001 京都府京都市左京区宝ヶ池

司会

尾見 徳弥先生

クイーンズスクエアメディカルセンター
日本医科大学客員教授、東京医科大学兼任教授



演題

1

脱毛の未来を見据えた
当院における脱毛機選定ポイント
～進化を続ける脱毛機の選定プロセスと現状報告～

レーザークリニック 総院長 木村 真聡先生

演題

2

CALECIM® 臍帯幹細胞培養液とダーマペン4を
用いたコンビネーション治療効果の検討

麴町皮ふ科・形成外科クリニック 院長 荻部 淳先生



演題 1 脱毛の未来を見据えた 当院における脱毛機選定ポイント ～進化を続ける脱毛機の選定プロセスと現状報告～

[PROFILE]

2004年 大阪大学医学部医学科卒業
2004年 大阪大学医学部付属病院・JCHO大阪病院 初期臨床研修
内科・皮膚科・美容皮膚科クリニックを経て
2017年 レジーナクリニック大阪梅田院 院長
2018年 レジーナクリニック 総院長

レジーナクリニック
総院長

木村 真聡先生

脱毛機の選定法は蓄熱式脱毛という概念が出現したことによって大きく変わったと考えている。当院ではAlma社のSoprano ICE Platinum及びSoprano Titaniumと、Candela社のGentleLase Proを採用しているが、従来のSelective Photothermolysisに基づいたいわゆる熱破壊式脱毛と、其れに囚われない新しい概念である蓄熱式脱毛は一長一短あると日々の診療で感じている。また同効の機械は全ての把握が困難なほど多くあり、次から次へと新商品が市場に出ているが、現時点では採用機種が当院にとってはベストではないかと考えている。ただし現在も他の機械のデモを繰り返しながら選定を続けているところである。

本セミナーでは1. 熱破壊式脱毛と蓄熱式脱毛のメリットとデメリット、2. 当院の現状とそれに則した求める機械像、3. 実臨床での使い分け、4. 様々な機種を比較して分かってきた選定のポイント、5. 今後の脱毛機に求めることを横断的に解説していく予定である。

演題 2 CALECIM® 臍帯幹細胞培養液と ダーマペン4を用いた コンビネーション治療効果の検討

[PROFILE]

順天堂大学医学部卒業
東京大学附属病院形成外科入局
埼玉医大総合医療センター形成外科・美容外科助教
福島県立医大付属病院形成外科

寿泉堂総合病院形成外科
山梨大学附属病院形成外科助教・医局長
麹町皮ふ科・形成外科クリニック院長
予防医療研究協会理事長



麹町皮ふ科・形成外科クリニック
院長

荻部 淳先生

ここ数年で、日本における美容医療は格段に進歩し、再生医療も含めたアンチエイジング、美肌治療への知識も広がり、年々ハイレベルなニーズが高まっている。皮膚の形態学的変化は細胞外マトリックスの変化が主な要因と考えられ、コラーゲンの減少、コラーゲン繊維の断片化、そしてエラスチン繊維の変性による変化である。治療方針として、レチノイン酸やビタミンCなどの外用剤、レーザー治療や、ラジオ波、高密度焦点式超音波(HIFU)を用いたエネルギー装置によるもの、そしてPRPや幹細胞培養上清液など成長因子・サイトカインを用いたBiostimulationがある。CALECIM®プロフェッショナル・セラムはアカシカの臍帯幹細胞由来であり有効成分濃度が高いとされ、臍帯から採取できる幹細胞が幼若であり、表皮・真皮の両方にアプローチできる間葉系幹細胞、上皮幹細胞を含むことが特徴的である。今回我々の施設でこのCALECIM®美容液を、電動極細針で皮膚の真皮層まで小さい穴をあける美肌再生治療器ダーマペン4を用い、ドラッグデリバリーによるコンビネーションセラピーを被験者25名程度に実施した。施術内容と治療効果について肌解析装置VISIAを用いて術前・後で詳細に検討した。